

平成 20 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 日 本 基 礎 技 術 株 式 会 社
代 表 者 名 取 締 役 社 長 中 原 巖
(コード番号 1914 東証・大証 第1部)
問 合 せ 先 取 締 役 常 務 執 行 役 員 松 本 文 雄
(TEL 06-6351-5621)

平成 20 年 3 月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 11 月 16 日の中間決算発表時に公表の平成 20 年 3 月期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 3 月期業績予想数値の修正 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 19 年 11 月 16 日発表)	17,000	310	480	200
今回修正予想 (B)	15,700	△60	△130	△360
増減額 (B-A)	△1,300	△370	△610	△560
増減率	△7.6%	—	—	—
(ご参考) 前期 (平成 19 年 3 月期) 実績	18,286	366	520	327

2. 修正の理由

当期の業績見込みにつきましては、受注高について、民間大型工事の受注はありましたが、引き続き公共投資の減少の中、受注環境は依然として厳しく、受注高が減少したこと等により、売上高が前回予想を下回る見込みとなりました。また、売上高の減少と、受注競争激化による価格競争の中で工事利益率が悪化したこと等もあり、完成工事総利益が減少することとなり、経費節減等コストダウンに努め一般管理費の削減を行いました。営業利益は、前回予想を下回る見込みとなりました。

また、経常利益につきましては、当社が、資金運用目的で保有しております投資有価証券 (円建元本確保型債券) 等について、「その他の複合金融商品に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第 12 号) にそって内容を見直した結果、今期末より、損益を調整する複合金融商品の処理の適用範囲を拡大し、元本が確保されているものについても、当該金融商品全体を時価評価し、評価損益を当期損益に反映することといたしました。当該有価証券等について、評価損 (2 億 64 百万円) を当期の営業外費用に計上したこと等により、経常利益も

前回予想を下回る見込みとなりました。

なお、当期純利益につきましては、投資株式について、期末時の株式市場の相場下落に伴い投資有価証券評価損（2億36百万円）を特別損失に計上したこと等により、当期純利益は前回予想を大幅に下回り、3億60百万円の当期純損失となる見込であります。

なお、当期末の剰余金配当につきましては、公表通り5円配当を予定しております。

※上記の予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以 上